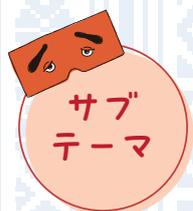


第65回全国保育問題研究集会・福岡集会



メイン
テーマ

わたしもあなたも
しあわせであるために
つながり合い学び続ける



サブ
テーマ

- すべての子どもの発達を保障し、権利を守るために学び合おう
- 生命を守り育てるために、戦争や災害を自分たちのこととして考え、伝え語り合おう
- 誰もが自分らしく安心して生活するために、公的保育制度を充実させよう
- 保問研90年の歴史を引き継ぎ、わたしたちの保育実践を深め合おう

開催日時

2026年6月12日(金)

受付 15:00～

オープニング 15:30～

13日(土)

受付 9:00～

分科会 9:30～

14日(日)

受付 9:00～

分科会 9:15～

場所

1日目 なみきスクエア (東市民センター)
2日目・3日目 九州産業大学 1号館 3号館

第65回
全国保育問題研究集会

歓迎
の
ことば

福岡集会実行委員長

鐘ヶ江 淳一

(九州産業大学)

全国の保育関係者のみなさん、日頃より、子どもたちの幸せと健やかな育ちを支える保育実践にご尽力いただき、心より敬意を表します。さて、来る2026年6月、福岡市にて第65回全国保育問題研究集会を開催することになりました。本集会は、全国の保育者関係者が一堂に会し、日々の実践を振り返り、学び合い、未来の保育をともに考える貴重な機会です。今回のメインテーマは「わたしも あなたも しあわせであるために つながり合い 学び続

ける」です。保育の現場は子ども・家庭・地域の多様なニーズに応える中で、日々変化し続けています。だからこそ、保育者同士がつながり合い、学び続けることが、保育の質を高め、子どもたちの幸せとよりよい育ちにつながります。

福岡集会では、各地の保育実践を共有しながら、保育者としての悩みや喜びを分かち合い、互いに励まし合える時間を大切にしたいと考えています。また、保育の専門性を深め、社会の変化に柔軟に対応する力を育む学びの場として、皆さまとともに豊かな時間を創り上げていきたいと思えます。博多のまちに流れる人情と屋台の灯りのような温もりが交差する福岡の地で、皆さまとお会いできることを心より楽しみにしております。ぜひ、全国各地からのご参加を待っとーよ！

記念講演

伴走型支援からみえる 家族の社会化について

～きぼうのまちのつくりかた～

講師 奥田 知志さん (NPO法人「抱樸」理事長)

奥田さんは、孤立が広がる今の日本において「ひとりにしない」「つながり続ける」ことを基本姿勢で長年活動されていますが、これは生活困窮者の方のみに言えることではなく、社会全体として考えられることではないでしょうか。以前は家族が担ってきた機能を社会として考える必要があるのではないのでしょうか。そして、「しあわせ」とは何か一人ひとりが考え学びを深めていきたいですね。複合型社会福祉施設建設プロジェクト（きぼうのまちプロジェクト）が発足した経緯や今後の展望もお聞きしながら、人と人がつながり続けることの大切さについてお話を頂きます。

保育士という職をどう捉えるのか保育所（児童福祉施設）の役割をどう捉えるのか、保護者の方とどう関わっていくのか、また自分自身（保育士、研究者という立場を超えて）が今後の人生をあゆんでいく上でどうあるべきなのか、考えるきっかけになるのではないかと思います。（企画担当より）



講師紹介

東八幡キリスト教会の牧師。ホームレスや困窮者の支援に携わる。ホームレス支援全国ネットワークの理事長、共生地域創造財団の代表理事、全国居住支援法人協議会の共同代表も務める。北九州を中心にホームレスの人々の自立を支援。活動当初は野宿当事者へ弁当を配りながら、相談を聞くという取り組みだったが、現在は障がい・子ども・家族など包括的な支援を行っている。「なんちゃって家族」のようにつながる“まちづくり”として、2026年秋にまちびらき予定の、複合型社会福祉施設の建設プロジェクトを進めている。

特別講座

6月13日(土) 16:00~17:30

定員
000名

…会場定員数



…動画配信あり

講座A

定員

100名

福岡の文化を語る

講師 志岐 らん梅さん (博多にわか振興会 副理事長)

「学校で一番調子のよか先生は誰かいな?」「そらあ、校長(好調)」このようなものが博多にわかの一口にわかです。但し、博多にわか単なる言葉遊びではありません。博多に伝わる話芸の郷土芸能です。にわかをみて、歴史を学び、実際につくってみましょう。言葉の面白さやにわか魅力を感じ楽しんでいただければ幸いです。

講座B

定員

180名

乳幼児の身体づくり・運動で大切にしたいこと

講師 上月 智晴さん (京都保問研・京都女子大学)
塩田 桃子さん (大阪保問研・大阪成蹊短期大学)
横井 喜彦さん (愛知保問研・中京学院大学短期大学部)

昨年6月、保育問題研究シリーズ『子どもの身体づくり・運動～赤ちゃんから幼児までの保育実践を読み解く～』を出版しました。本書に掲載された14本の運動実践には、多くの示唆が込められています。本講座では、これらの実践を読み解きながら、乳幼児の身体づくり・運動で大切なことについて、みなさんと共に学びたいと思います。

講座C

定員

200名

沖縄戦について

～取材、証言から未来に向けて記憶をつなぐ～

講師 渡辺 考さん (GODOM沖縄合同会社所属)



沖縄戦から81年。元NHKディレクター渡辺考さんを迎え、取材を通して見えた沖縄の歴史についてお話いただけます。平和について共に考え、未来を生きる子どもたちへ語り継ぐきっかけになればと思います。

講座D

定員

120名

次回開催地岡山から

「本当の意味で子どもの主体性を大切にするととは」

講師 入江 慶太さん (岡山保問研)

子どもの主体性を大切にするととは何か。本講座ではその意味を問い直します。大人が用意した枠の中での主体性ではなく、子どもの思いや願いにどう向き合い、保育に生かすのか。岡山からの発信として、日々の保育を見つめ直す視点を参加者と共有します。

講座E

定員

50名

久留米餅の歴史とワークショップ

講師 松枝 小夜子さん (工房 藍生庵)

福岡県筑後地方に伝わる久留米餅。その200年もの歴史を持つ織り物についての学びを通して、子どもたちと文化のつながりを考えていきたいと思います。久留米餅を使ったワークショップもおたのしみです！ ※材料費として2000円を当日お支払いいただきます。

講座F

定員

180名

子どもたちの守り手として生きる

～水害の事例を通して対応のあり方を考える～

報告者 草場 慎一さん (福岡久留米市・大橋保育園)
松沼 美樹さん (東京世田谷区・おひさま保育園)
コーディネーター 鈴木 牧夫さん (東京保問研)
神田 朋美さん (東京保問研)

東日本大震災から15年経過していますが、大地震による津波や台風・線状降水帯による豪雨災害危険が従来以上に増えています。今回は、水害に見舞われた二つの保育施設の事例をもとにして、水害への対応のあり方について検討します。この中で自治体がとるべき責任についても考えていきます。

講座G

定員

200名

子育て社会について
「子育てコミュニケーション」

講師 林田 スマさん (元RKBアナウンサー・まどかびあ館長)



子どもを取り巻く社会環境は急速に変化しているものの、常に変わらず求められるものは双方向のコミュニケーションではないでしょうか。子どもたちとの日々の言葉のやりとりやその影響力について考えます。

講座H

定員

150名

こども誰でも通園制度の本格実施をむかえて

シンポジスト 辻 文さん (大阪府堺市みんなの保育園・園長)
他1名 (現在検討中)
コーディネーター 中村 強士 (愛知保問研・日本福祉大学)

「こども誰でも通園制度」(誰通)が2026年4月から全国すべての市町村で実施されることになりました。これまで全国各地で「モデル事業」や「試行的事業」が進められてきました。「誰通」が保育や子育て支援に何をもたらすのか、試行的事業を実施してきた保育所等の報告をもとに、現状と課題を共有したいと思います。

講座I

定員

120名

「幼稚園の役割」について
あらためて考える

講師 檜崎 賢さん (西南学院舞鶴幼稚園・副園長)



子どもを取り巻く環境の変化により、育ちそのものや保育のやり方も変わってきました。

実際の保育を振り返りながら幼稚園の役割を改めて問い直すことで、変わらずに持ち続ける芯の部分とは何かを皆さんと共に考える機会にしたいと思います。

講座J

定員

200名

ジェンダーについて

『多様な性～性別不合・性別違和について～』

講師 椎太 信さん (GID Link代表)

多様な性の視点は、子どもの安心感と自己肯定感を育む基盤になります。

教育現場で役立つ関わり方や配慮のポイントを体験談も交えながら分かりやすくお話します。

分科会

6月13日(土) 9:30~15:30

6月14日(日) 9:15~12:15

氏名に*のある運営委員は実行委員を兼ねるため、途中退室することもあります。

分科会の実践提案は、『季刊保育問題研究338号』に掲載されています。必ずご持参ください。購入される方は、各地の保問研または新読書社までお問い合わせください。

新読書社

FAX 03-3814-3097

mail info@shindokusho.jp

2 集団づくり

いま、人権と民主主義が問われています。子どもたちを民主的な主権者として人間らしく育てていくために、子どもたちの要求を掘り起こし、豊かな集団生活を保障していきたいと思えます。自治的、民主的集団をめざし、子どもたちの現実や集団の現状をふまえて、実践の道筋と手だてをどう考えたらよいか、地域や家庭をも視野に含めた実践をどうつくりだすのか、また保育者集団のあり方など、実践をもとに深めていきましょう。

運営委員

川上隆子(熊本)、光本弥生(広島)、鈴木牧夫(東京)、中島常安(北海道)、中洲良子(大阪)、長瀬美子(大阪)、名倉一美(佐賀)、西野純(仙台)、服部敬子(京都)、山本理絵(愛知)、吉田真理子(三重)、脇信明(長崎)

4-a 身体づくりー運動

この分科会は、保育実践における「運動」のあり方について考えるところです。「運動」はからだを育てることはもちろん、保育者、仲間との関係、こころを育てていきますが、単に「運動」すればよいというものではありません。今なぜ、その「運動」なのか、その教材を通して何を教えるのか、子どもの運動要求をどのように掘り起こし、組織化するのか等、乳幼児期の発達に即して、「運動」の目的、内容、方法を丁寧に考える必要があります。今日、便利な生活が進行するなかで「運動」する機会そのものが奪われつつあり、乳児期からより意識的な身体づくりの実践が求められています。各園がおかれている保育環境、保育条件のなかでの工夫はもちろん、子どもの最善の利益を保障するという視点に立って、豊かな身体づくりを実践するために必要な保育環境の基準についても考えていきたいと思えます。

運営委員

上月智晴(京都)、坂本慎也(福岡)、佐々木雄大(東京)、塩田桃子(大阪)、千葉直紀(信州)、伊藤愉可(北埼玉)、横井喜彦(愛知)

1 乳児保育

乳児保育分科会では、乳児を主体的な存在であることとらえ、その主体性を育む議論を深めてきました。また、「子どもの最善の利益」の観点から乳児保育のあり方を考えてきました。

乳児保育では特定の大人と安定的な関係が築かれることは、子どもの育ちや豊かな保育を実践する上で重要な部分であり、保育所等で安心して生活し、遊びを楽しむ上で大切なことです。一方で、2024年度から試行的事業として始まった「こども誰でも通園制度」は、2026年度から子ども・子育て支援法に基づく新たな給付として、全国の自治体において実施されるなど、新たな課題が生じています。

このような時だからこそ、具体的な実践に学びながら幅広く議論していきましょう。

運営委員

浅川淳司(石川)、亀谷和史(愛知)、小林美花(北海道)、佐々木洋子(東京)、鈴木亜由美(広島)、友廣万貴子(岡山)、西林正美(兵庫)、*沼田史(福岡)、野村朋(大阪)、古川純子(北埼玉)、松田千都(京都)、吉田房枝(愛知)

3 あそび

いま子どもたちはどんなあそびをたのしんでいますか。仲間とともに思いっきり笑ったり泣いたり怒ったり、我を忘れ、夢中になってあそぶ感動を味わっているのでしょうか。なにかに没頭し、夢中になって身体を動かしたり考えたりしながら、自分の人生は自分のものだという手ごたえを感じられているのでしょうか。保育者はあそぶ子どもの姿に励まされ、明日も保育の場に来たいと思えているのでしょうか。なぜ保育実践においてあそびが大事だと言われるのか。分科会では各提案から討議の柱を踏まえ、①子どもやその家族を理解し、②子どもが夢中になるあそび、あそび仲間、あそびの過程、飼育や栽培などについて語り、③あそびへの保育者の関わりや、④保護者や地域との連携について考える時間をもちたいと思っています。

運営委員

岡村由紀子(静岡)、木都老克彦(神奈川)、塩崎美穂(東京)、竹内圭(京都)、田中浩司(東京)、富田靖子(愛知)、仲村健一(沖縄)、*古林ゆり(福岡)、松元泰樹(鹿児島)、三浦和恵(仙台)

4-b 身体づくりー食

この分科会は、子どもたちや保護者が置かれている状況を知り「給食は保育そのもの」を軸に「子どもの豊かな育ちを保障する食」について全国の仲間と実践を語り合い、子どもたちの成長を確かめ合う分科会です。

物価高騰や米の価格が安定しない状況が続く、毎日の給食に大きな影響が出ています。食と農の安全性の上に安心した給食の提供ができることなどについても話し合いたいと思えます。

全国各地の実践から学び、食のプロとして求められる発達保障の支援のあり方や、様々な食と子どもの育ちの問題について、保護者支援と発信についても共に語り合い、深め合っていきたいと思えます。

運営委員

安部貴洋(仙台)、井上かおる(大阪)、加藤朱美(愛知)、児玉友美(滋賀)、小西律子(兵庫)、宮田隆子(京都)

5-a 認識と表現—文学

これまで提案され、話し合ってきた実践は、絵本の読み聞かせ・お話づくり・劇あそび・劇づくり・紙芝居などの活動、教材としての絵本の分析、父母・地域とかかわる園文庫の取り組みなど多岐にわたっています。多様な実践に迫る共通の視点は、文学と出会うことによって認識を深め、表現し、その中で子どもたちの生活がよりよいものになり、集団の質が高まることです。文学の実践の可能性を追求していきましょう。

運営
委員

小川絢子(愛知)、佐藤智恵美(北海道)、田代康子(東京)、徳永満理(兵庫)、西川由紀子(京都)、青井郁美(大阪)

5-b 認識と表現—美術

子どもの絵のとらえ方や見方、指導のあり方について古くから保問研の中にも多様な考え方や実践があります。毎年の分科会では、こうした積み重ねを丁寧に認識し合うと同時に、様々な実践の違う点、結論を急がず、じっくり実践の事実を丁寧に出し合う中で、相互理解を深めていけたらと思います。そこから見えてくるものを大切にしたいと考えています。

運営
委員

伊藤正雄(東京)、*高倉華代(福岡)、田中義和(愛知)、平沼博将(京都)、本田美絵(大阪)、山田真世(広島)

5-c 認識と表現—音楽

音楽分科会は、子どもたちの生活を語り、子どもたちの歌声等を聴きあい、「音楽が保育園の暮らしの様々なこととつながり子どもたちを育てている事実」を深め合ってきています。保育の中の音楽は多様にあります。これまでの分科会の中では、『わらべ歌』『創作曲』『あそびうた』『キーボード』『太鼓』『歌曲』『劇ごっこ』『リズム表現』などが提案されてきました。子どもたちを夢中にさせるその教材の魅力を大事にし、選んだ音楽の何が(どこが)子どもたちを育てたのかを探り続けています。分科会では、子どもの描いた絵、制作物、絵本などの展示、あそびや歌の様子のDVDなどで、提案の内容を深めています。

運営
委員

荒木美穂(北埼玉)、安藤正彦(京都)、坂手佳子(大阪)、高橋弘子(群馬)、藤波陽子(栃木)、山並さやか(熊本)

5-d 認識と表現—科学

「科学」とは、「人間が好奇心や探究心を持って行う、ものごとやことからの真理の探究」のことを指します。科学と聞くと、難しそうだなと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。身近なところに科学のタネはいくらでも転がっていますし、その不思議さや面白さについて自分なりに考え始めたとき、それはすでに科学の領域に足を踏み入れていることになるのです。科学分科会では、子どもなりの気づきや発見、そして、仮説を立て検証するプロセスを大切にしています。また、そのことを人と人、人とモノとの多様ななかかわりの中で豊かに表現し、認識を深めていくことを大切にしています。そんな議論をしたい方はぜひ参加してください。

運営
委員

高橋白百合(愛知)、滝口圭子(石川)、富田昌平(三重)、長崎元気(大阪)

6 保育計画

保育計画は自主編成が基本であるという前提に立ち、以下の点を学び合ってきました。例えば、保育者とともに、子どもも保護者(時には地域)も計画づくりの主体者である。子どもを「指導」する計画ではなく、「子どもの声を聴き」「子どもの切り拓いていく力」を信頼した「子どもとつくる」計画づくりの視点と方法。自分たちの実践と計画の「視点」を広げ、深めていく会議、学習・研修、記録のあり方。保育者の生育歴・年齢・経験・価値観の違いによるズレを大事にし、「一致点の追求」をめざす“時間のかかる合意形成”の進め方。多様な価値観や災害、危機管理など社会情勢の変化の中で、「子どもの最善の利益」を守るために大切にすべきことを保育の計画と実践にどのように反映していくか、討議を深めましょう。

運営
委員

入江慶太(岡山)、合田史宣(愛媛)、福井茂(大阪)、渡邊保博(京都)

7 保育時間と保育内容

「一時保育」「誰でも通園制度」なども含め保育時間がますます多様になっていますが、子どもたちの生活全体は健全に守られているでしょうか。子どもたちの気持ちの安定やあそびへの意欲に見合った工夫がされているでしょうか。保護者支援ではより丁寧さが必要となっています。この分科会では、子どもたちの保育時間に合わせた保育の工夫や保護者支援などの実践を討論、交流してきました。あいつぐ保育政策の変化のもと、「保育時間」「保育内容」をめぐる新たな問題提起を求めています。参考:『子どもの生活と長時間保育—生活のリズムと日課』(新読書社2019年刊・保育問題研究シリーズ)

運営
委員

河野友香(愛知)、清水玲子(東京)、田中摂子(岡山)、横井洋子(北海道)

8 保育政策と保育運動

止まらない少子化、子どもの貧困や格差の広がり、保育施設での重大事故の多発、不適切な保育や虐待の問題化など、幼い子どもや保育・子育てを取り巻く状況が厳しさを増しています。

本分科会では、子どもや保護者・保育者の「暮らし」を支える「権利としての保育」を保障する制度への抜本的な転換をどのように実現していくかを、明らかにする課題があります。提案から参加者のみなさんと課題を共有し、各地の保育や子育て施策の現状や保育要求に応える取り組みに学び、保育の質を高める施策課題と保育運動のあり方を考えます。

運営委員

大宮勇雄(東京)、小幡幸拓(仙台)、景山一正(岡山)、武尾正信(京都)、平松知子(愛知)、藤木克己(大阪)、森山幸朗(鳥根)、吉川継史(広島)

10 父母と共につくる保育内容

コロナ禍で「三密」を避けた生活は、ゲームやスマホなどの電子メディアに触れる機会が増え、子どもにとっても大人にとっても、仲間と向き合いながら自己と向き合い、共に育ちあう機会が失われてきたように感じます。そうした時代の渦中で育った子どもたちや若者たちと、私たちは保育の場で向き合っています。分科会では、そのような中でも父母との信頼関係を築き、繋がりあい、保育を伝えていく工夫や葛藤など全国の保育園での取り組みが、様々な実践となり報告されてきました。今までの「当たり前」にとらわれず、アフターコロナでの実践を通じた気づきから「何を大切にしたらよいか」を深め、保護者と手を取り合って共に保育をつくっていくことの大切さを学びあいたいと思います。

運営委員

阿部素子(京都)、木村裕子(大阪)、小堀智恵子(愛知)、八幡聡美(岡山)、山沢智樹(仙台)

12 地域に開かれた保育活動

生活・労働環境の悪化、貧困や格差の拡大、孤立の深刻化など、子育てをめぐる不安、困難はかつてないほど大きくなっています。そうした状況のなか、すべての子ども・家庭の権利を保障するうえで、保育施設が果たす役割は重要性を増しています。「こども誰でも通園制度」をはじめ、さまざまな施策が進められるなか、「少子化対策」のためではなく、子どもや家庭のしあわせを実現するための取り組みが求められています。

本分科会では、保育施設、自治体、子育て支援センター、こども食堂、学童保育など、さまざまな施設・機関・人々による地域活動、子育て支援の取り組みについて検討し、地域に開かれた保育活動の発展をめざします。

運営委員

愛甲明実(鹿児島)、西谷順子(兵庫)、林あすさ(大阪)、松浦崇(静岡)

9 障害児保育

障害児保育分科会では、障がいのある子どもを含む特別な支援や配慮を要する子どもへの保育について、子どもの行動や思いをどう受け止め、どう理解し、一人ひとりの育ちをどう支えるかを考えてきました。そして、周りの子どもたちの受け止めや関わりをみていく中で、すべての子どもたちが共に育ちあい、互いに仲間として認め合う集団が形成されていくことを確かめ合ってきました。また、各地で児童発達支援が整備され、さまざまな形態の療育が実施されていることを受け、保育と療育の連携のあり方についても議論しています。どの子どもにも健やかな成長・発達が保障され、多様性が尊重されるためには何が必要か、今年も保育実践を通して、学び合い、考える機会にしたいと思います。

運営委員

五十嵐元子(東京)、河合隆平(東京)、杉井知子(仙台)、高田智行(滋賀)、田中洋(大分)、三山岳(愛知)、山口浩明(鹿児島)

11 乳幼児期の平和教育

平和的人間の形成は現代の教育の原点であり、人類的課題といえるものです。乳幼児期から子どもの心の中に平和のとりでを築く平和教育の営みは、平和な将来の社会を保障する重要な条件であり、最も確実な道といえます。平和とは、単に戦争が無い状態だけでなく、貧困、飢餓、虐待、失業、人種・民族・性などの差別の無い、人権が守られている状態を指すものです。保育現場で、生きづらさを抱えた子どもたち・親たちに向き合い日々取り組んでいる、そのことが平和教育につながるものです。愛されているという安心感や自己肯定感を育むことも、仲間と話し合う力を培うことも平和の心を育てる実践といえます。平和教育は決して「敷居が高い」ものではありません。日常の保育を改めて平和教育の視点で捉え直してみることから始めていきましょう。

運営委員

石井奈美(広島)、石原剛志(静岡)、ウィンフィールドひろみ(沖縄)、船越美穂(福岡)、前田晶子(鹿児島)

13 異年齢保育

近年、異年齢保育に取り組む園が増え、その形態も小規模の保育園だけでなく年齢別にクラス編成ができるような園でも行われたり、幼児だけでなく乳児を含む異年齢保育も行われています。2016年から異年齢保育の分科会が設置され、異年齢保育を実践している園、関心を寄せている園も含めてたくさんの参加者で論議と交流を行っています。異年齢保育を通して子どもの育ちを語り、そこから見えてきた疑問や課題を交流し、展望を語り合い、共に未来を切り開いていきましょう。

運営委員

川田学(北海道)、佐藤満(滋賀)、谷川芳秋(京都)、坪中弘子(岡山)、渡辺智美(三重)、西本紫舞(熊本)

■ 参加要項 ■

申し込みについて

ステップ 1

受付開始 4月1日(水)から

申し込み方法

- 「全国保育問題研究協議会」のホームページから
<https://zenhomon.jp/>
- または
右の2次元コードからも申し込みいただけます



パソコンやスマホの画面上では、2次元コードをクリック・タップすると入力画面が表示されます。

ステップ 2

「福岡集会申込ページ」の「名鉄観光」をクリックすると、申込フォームが開きます。必要事項を入力し、お申し込みください。完了後にメールが届きます。

ステップ 3

メールに記載の口座に参加費をご入金ください。振込手数料は参加者負担となりますので、ご了承ください。

※期日までに入金されなかった場合でも、自動取消にはなりません。

申込期間

区分	期限	期日	金額
一般	一次申込期間	4月1日(水)～ 5月7日(木)	7,000円
	一次振込期限	5月14日(木)	
	二次申込期間	5月8日(金)～ 5月22日(金)	7,500円
	二次振込期限	5月29日(金)	
当日参加	—	8,000円	
動画配信	動画配信視聴のみ 申込期間	4月1日(水)～ 6月16日(火)	2,000円
	動画配信視聴のみ 振込期限	6月23日(火)	
学生	申込期間	4月1日(水)～ 5月22日(金)	3,000円
	振込期限	5月29日(金)	

◆ お申込みから集会当日までの流れ ◆



受付をスムーズに行っていただくため、本年度はバーコードによる受付を行います。参加券は、集会開催の3週間前（5月22日頃）を目途に専用WEBシステムよりダウンロードいただけるようになります。準備が整いましたらメールでご案内いたしますので、少しお待ちいただけますようお願いいたします。

お弁当について

- 今集会では、6月13日(土)の昼食(お弁当)の申し込みを受け付けいたします。集会参加、宿泊のお申し込みと同様に専用WEBシステムでお申し込みください。
- 会場周辺には飲食店やコンビニエンスストア等が少ししかありませんので、お弁当のお申し込みをお勧めいたします。当日のお弁当販売はありませんのでご注意ください。

宿泊について

- 名鉄観光サービス㈱をご利用いただけます。宿泊先は集会専用WEBシステムよりお申込みいただけます。システムのホーム画面に地図が掲載されておりますので、ホテルと会場の位置を確認いただけます。宿泊代金は1名1泊朝食(または軽食)付です。

動画配信について

- 動画配信期間は6月21日(日)～7月21日(火)です。動画配信のみのご参加の方には、視聴方法とPDF版講座資料をメールで送ります。

参加取消について

- 参加費用振込後のキャンセルはできません。動画配信の視聴はできますのでご利用ください。
- トラブル防止のため、お電話での取消・変更はできません。メールでご連絡ください。
- ご不明な点がございましたら、名鉄観光サービス㈱福岡支店へお問い合わせください。

不測の事態への対応

- 災害時の緊急対応については、「全国保育問題研究協議会」のホームページでお知らせします。

参加にあたっての注意事項

- 会場では講師または運営委員・実行委員会の許可なく、会場の様子やスライド・資料等を撮影することはお控えください。
- 動画配信では、スクリーンショットや動画キャプチャー等による録音・録画は、個人で利用する場合も含めておやめください。
- 誰もが安心して参加できる集会にするために、皆様のご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先

4月1日(水)の受付開始からお問い合わせ可能です。

名鉄観光サービス株式会社 福岡支店

担当: 井浦(いうら)・吉住(よしずみ)・石飛(いしとび)

受付時間 平日 9:30～17:00
(土・日・祝日を除く)

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-2-5 紙与博多ビル8階
E-mail 65-syukai-f@mwt.co.jp



集会専用
WEBシステム

スケジュール

6月
12日 (金)

15:00	15:30	17:00	19:00
受付開始	開会集会 ●オープニング ●歓迎挨拶 実行委員長 鐘ヶ江 淳一 ●基調提案 全国保育問題研究協議会 基調提案作成委員会	記念講演 奥田 知志さん (NPO法人「抱樸」理事長)	終了

6月
13日 (土)

9:00	9:30	12:30	13:30	15:30	16:00	17:30
受付開始	分科会	休憩	分科会	終了	特別講座	終了

6月
14日 (日)

9:00	9:15	12:15	12:45	13:30
受付開始	分科会	分科会終了	閉会集会 ●閉会の挨拶 ●次回開催地アピール 第66回岡山集会実行委員会 ●集会宣言	終了

会場 アクセスマップ

12日(金) 1日目

地下鉄・JR利用アクセス

- 福岡空港 → 市営地下鉄 福岡空港駅 → 市営地下鉄 博多駅 → JR博多駅
- 地下鉄空港線 乗換 5分

バス利用アクセス

- 天神日銀前 (19Aのりば)
- 天神中央郵便局前 (18Aのりば)
- 系統番号4 約40分
- 千早駅 ※1 → なみきスクエア (徒歩約1分)
- ※1 千早駅は快速利用可能 (JR鹿児島本線乗り普通電車で約10分)

13日(土) 14日(日) 2・3日目

地下鉄・JR利用アクセス

- 福岡空港 → 市営地下鉄 福岡空港駅 → 市営地下鉄 博多駅 → JR博多駅 → 九産大前駅 ※2
- 地下鉄空港線 乗換 5分

バス利用アクセス

- 天神日銀前 (19Aのりば)
- 天神中央郵便局前 (18Aのりば)
- 九州産業大学南口
- 九州産業大学前・JR九産大前駅
- 急行 都市高速経由で約15分
- 徒歩約1分
- ※2 九産大前駅は普通利用のみ (JR鹿児島本線乗り普通電車で約15分)

21A(雁ノ巣レクリエーションセンター行き等) 25A(志賀島小学校前行き等)
26A(赤間営業所行き等) 都市高速経由で約15分